

著書、学術論文等の名称	単著、共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
1 (学術論文) Diastereo- and enantioselective synthesis of <i>anti</i> -1,3-mercapto alcohols from α,β -unsaturated ketones via tandem Michael addition-MPV reduction	共著	2004年 1月	Tetrahedron <i>Asymmetry</i>	1, 3-メルカプトアルコールの新たな不斉合成を開発した。 α,β -不飽和ケトンに不斉補助基を用いて tandem Michael addition-MPV reduction を行うとこれまで選択性が出ていなかった β 位にアルキル基を持つものでもジアステレオ選択的に化合物が得られた。さらに、ここで得られた化合物から光学活性 1, 3-メルカプトアルコールにエナンチオ比を低下させることなく得ることに成功した。 (当該論文のページ数:13 ページ) (当該論文の著者名:Minoru Ozeki, Kiyoharu Nishide, Fumiteru Teraoka, Manabu Node) <u>共同研究につき本人担当分抽出不可</u>
2 (学術論文) Effects of Chemical Modification of Ursodeoxycholic Acid on TGR5 Activation	共著	2010年1月	<i>Biol. Pharm. Bull</i>	(当該論文のページ数:7 ページ) (当該論文の著者名:Yusuke IGUCHI, Tomoko NISHIMAKI-MOGAMI, Masafumi YAMAGUCHI, Fumiteru TERAOKA, Tetsuo KANEKO, and Mizuho UNe) ウルソデオキシコール酸の官能基変換部分担当
3 (学術論文) Asymmetric carbonyl migration of α -amino acid derivatives via memory of chirality	共著	2010年12月	SYNLETT	不斉記憶型反応にカルボニルカーバメト基の新規転位反応を組み合わせることで高エナンチオ選択的 α -カルボニルアミノ酸の合成に成功した。 (当該論文のページ数:4 ページ) (当該論文の著者名:Fumiteru Teraoka, Kaoru Fuji, Orhan Ozturk, Tomoyuki Yoshimura, Takeo Kawabata) 反応の探索、創出、各種条件の検討等すべての部分において担当した。
4 (学術論文) 2-(Benzothiazol-2-yl)-phenyl- β -D-galactopyranoside derivatives as fluorescent pigment dyeing substrates and their application for the assay of β -D-galactosidase activities	共著	2013年2月	Bioorg. Med. Chem. Lett.	(当該論文のページ数:5 ページ) (当該論文の著者名:Tadamune Otsubo, Fumiteru Teraoka, Takanori Kiminami, Sayaka Ishibashi, Akira Minami, and Takashi Suzuki) 2-(Benzothiazol-2-yl)-phenyl- β -D-galactopyranoside 合成部分担当
5 (学術論文) Computational design of a sulfoglucuronide derivative fitting into a hydrophobic pocket of dengue virus E protein	共著	2014年4月	<i>Biochem. Biophys. Res. Commun</i>	計算科学を基にし合成したオクチル硫酸化グルクロン酸誘導体における Dengue ウイルス Eタンパク質への結合方式の解明および抗 Dengue ウイルス薬への展開を示した。 当該論文のページ数:6 ページ (当該論文の著者名:Tomoko Abe, Ayumi Sando, Fumiteru Teraoka, Tadamune Otsubo, Kouichi Morita, Hiroaki Tokiwa, Kiyoshi Ikeda, Takashi Suzuki, Kazuya IPJ Hidari) <u>共同研究につき本人担当分抽出不可</u>

6 (学術論文) Involvement of the Arg566 residue of <i>Aeromonas sobria</i> serine protease in substrate specificity	共著	2017年10月	PLOS ONE	(当該論文のページ数:16 ページ) (当該論文の著者名:Hidetomo Kobayashi, Tadamune Otsubo, Fumiteru Teraoka ² , Kiyoshi Ikeda, Soshi Seike ¹ , Eizo Takahashi, Keinosuke Okamoto, Toru Yoshida ⁴ Hideaki Tsuge, Hiroyasu Yamanaka) 共同研究につき本人担当分抽出不可
(学会発表)				
1 MPV 反応を用いた α, β -不飽和ケトンから 1,3-メルカプトアルコールの不斉		2002年 10月	有機合成化学北陸セミナー	
2 光学活性 1,3-メルカプトアルコールの合成とその応用		2003年 3月	日本薬学会第 123 年会 2003.3.	
3 1,3-メルカプトアルコールの不斉合成とその応用.		2003年 11月	第 53 回 日本薬学会近畿支部総会	
4 光学活性 1,3-メルカプトアルコールの合成とその応用		2003年 11月	第 84 回 有機合成シンポジウム	
5 1,3-メルカプトアルコールの不斉合成とその応用		2003年 12月	第 23 回 有機合成若手セミナー	
6 Tandem Michael – MPV 反応を用いる光学活性チオール類の合成		2004年 3月	日本薬学会第 124 年会	
7 アミノ酸 N- γ -ブチルカルボニルカーバメートのアニオン型不斉転位反応の開発		2005年 11月	第 55 回 日本薬学会近畿支部総会	
8 アルコキシカルボニル基の不斉記憶型転位反応の開発		2006年 3月	日本薬学会第 125 年回	
9 アミノ酸誘導体の不斉アシル転位反応の開発		2006年 12月	反応と合成の進歩シンポジウム	
10 シアリダーゼの機能解明を目指したシアル酸誘導体を含む蛍光基質の合成研究		2010年 12月	反応と合成の進歩シンポジウム	
11 Development of Fluorescent Substrates having Sialic Acid Derivatives for Analysis of Sialidase Activities		2011年 11月	国際メディシナルケミストリー	
12 Development of benzothiazol-2-yl-phenyl glycosides as fluorogenic substrates for analysis of glycosidases and the application for the fluorescent imaging of sialidase activities		2012年 9月	第6回武田科学振興財団薬科学シンポジウム	
13 フルオラス・タグ法を用いた新規シアリル化反応		2013年 3月	日本薬学会大133 年会	
14 ベンゾチアゾール系傾向顔料色素を用いたバイオプローブの開発		2013年 3月	日本薬学会大133 年会	

15	新規デング熱ウイルス感染阻害剤の合成研究	2013年 11月	第31回メディシナルケミストリーシンポジウム
16	フルオラス・タグ法を用いた新規シアリル化反応	2014年 3月	日本薬学会大134年会
17	蛍光性顔料色素を用いた新規蛍光シアリダーゼ基質の合成に関する研究	2014年 3月	日本薬学会大134年会
18	新規デング熱ウイルス感染阻害剤の合成	2014年 3月	日本薬学会大134年会
19	新規デングウイルス感染阻害剤の合成研究(3)	2014年 11月	第53回中国四国支部学術大会
20	炭素鎖長の異なるフルオラス・タグを用いたシアリル化反応の研究 (3)	2014年 11月	第53回中国四国支部学術大会
21	新規デングウイルス感染阻害剤の合成研究 (IV)	2014年 11月	第32回メディシナルケミストリーシンポジウム
22	異なる起源を持つグルコシダーゼの特異性定量化法の開発	2015年 3月	日本薬学会大135年会
23	新規デングウイルス感染阻害剤の合成 (V)	2015年 3月	日本薬学会大135年会
24	炭素鎖長の異なるフルオラス・タグを用いたシアリル化反応の研究 (4)	2015年 3月	日本薬学会大135年会
25	高精度第一原理計算を用いた新規抗デングウイルス阻害剤に対する理論的研究	2015年 3月	日本薬学会大135年会
26	新規デングウイルス感染阻害剤の合成 (VI)	2016年 3月	日本薬学会大136年会
27	フルオラス・タグを利用したシアル酸誘導体の合成	2016年 3月	日本薬学会大136年会
28	新規 CMP-シアル酸誘導体の合成とシアル酸転移効率の検討	2016年 3月	日本薬学会大136年会
29	高感度なβグルコシダーゼイメージング剤の合成と蛍光組織染色への応用	2016年 3月	日本薬学会大136年会
30	組織染色可能な蛍光シアリダーゼ基質の合成と応用	2016年 8月	第35回糖質学会
31	デングウイルス感染阻害剤の開発を目指したフルオロアルキル鎖を有する糖類の合成研究	2016年 10月	フルオラス科学研究会第9回シンポジウム

32	ライブイメージングを指向した蛍光シアリダーゼ基質の合成と応用	2016年 8月	第42回反応と合成の進歩のシンポジウム
33	新規デングウイルス感染阻害剤の合成 (VII)	2017年 3月	日本薬学会大137年会
34	定着性を向上させたシアリダーゼプローブの合成	2017年 3月	日本薬学会大137年会
35	ヒトパラインフルエンザウイルス検出のための新規蛍光イメージング剤の開発研究	2017年 3月	日本薬学会大137年会
36	含フッ素デングウイルス感染阻害剤の合成研究	2017年 10月	フルオラス科学研究会
37	蛍光官能基を持つ牡蛎由来新規抗酸化物質 E6 誘導体の合成研究	2017年 10月	第56回日本薬学会中国四国支部会
38	蛍光官能基を持つ 3,5-Dihydroxy-4-methoxybenzyl Alcohol 誘導体の合成研究 (2)	2018年 3月	日本薬学会第138年会
39	ヒトパラインフルエンザウイルス検出のための新規蛍光イメージング剤の開発研究 (2)	2018年 3月	日本薬学会第138年会
40	蛍光標識 Neu5Ac-(2 α ,3/6)-Gal 誘導体の合成	2018年 3月	日本薬学会第138年会
41	蛍光組織染色可能な水溶性ガラクトシアリダーゼ基質の開発	2018年 3月	日本薬学会第138年会
42	新規デングウイルス感染阻害剤の合成 (VIII)	2018年 3月	日本薬学会第138年会